

各教科の正答率、誤答例及び所見

1 国 語

(1) 正答率

問 題	配 点	正 答		一部正答		誤 答		無 答		通 過 率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)		
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)			
1	問 1	2	229	72.5	0	0.0	79	25.0	8	2.5	72.5	
	問 2	2	294	93.0	0	0.0	11	3.5	11	3.5	93.0	
	問 3	2	218	69.0	0	0.0	91	28.8	7	2.2	69.0	
	問 4	2	184	58.2	0	0.0	131	41.5	1	0.3	58.2	
	問 5	2	194	61.4	49	15.5	29	9.2	44	13.9	69.1	
2	(1)	1	205	64.9	0	0.0	98	31.0	13	4.1	64.9	
	(2)	1	90	28.5	0	0.0	217	68.7	9	2.8	28.5	
	(3)	1	297	94.0	0	0.0	13	4.1	6	1.9	94.0	
	(4)	1	169	53.5	0	0.0	110	34.8	37	11.7	53.5	
	(5)	1	113	35.8	0	0.0	163	51.6	40	12.6	35.8	
3	問 1	1	274	86.7	0	0.0	42	13.3	0	0.0	86.7	
	問 2	1	260	82.3	0	0.0	56	17.7	0	0.0	82.3	
	問 3	1	262	82.9	0	0.0	43	13.6	11	3.5	82.9	
	問 4	1	213	67.4	0	0.0	103	32.6	0	0.0	67.4	
4	問 1	2	291	92.1	0	0.0	17	5.4	8	2.5	92.1	
	問 2	ア	1	277	87.6	0	0.0	16	5.1	23	7.3	87.6
		イ	1	271	85.8	0	0.0	19	6.0	26	8.2	85.8
	問 3	2	193	61.1	0	0.0	114	36.1	9	2.8	61.1	
	問 4	2	142	44.9	53	16.8	52	16.5	69	21.8	53.3	
	問 5	2	227	71.9	0	0.0	75	23.7	14	4.4	71.9	
5	問 1	1	228	72.2	0	0.0	86	27.2	2	0.6	72.2	
	問 2	1	218	69.0	0	0.0	95	30.1	3	0.9	69.0	
	問 3	1	206	65.2	0	0.0	106	33.5	4	1.3	65.2	
6		8	25	7.9	263	83.2	13	4.1	15	4.8	57.6	

(2) 総合所見

平成19年度の国語問題の出題に当たって、次の点に配慮した。

- 1 国語の基礎的・基本的な内容について、できるだけ広範囲にわたって出題した。
- 2 文学的な文章と説明的な文章を理解する基本的な力や平易な古典を読みとる力をみようとした。
- 3 作文と漢字の読み書きについて出題し、文章表現力や基礎的な言語能力をみようとした。

出題のねらいは次のとおりである。

文学的な文章では、中学生になった「一平」が、村人に協力してマービ捕りに参加することを通して、一歩ずつ大人へと成長していく場面を問題文とした。文章全体の内容を展開に即して理解し、的確に表現する力をみようとした。特に、登場人物の心情を読みとる力や、場面や経過などに注意して読みながら文章全体の内容をとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみようとした。

説明的な文章では、国語の授業において「環境問題を考える」というテーマで選んだ本の内容を紹介するという場面を設定し、説明的な文章を理解する基本的な力をみようとした。事実と意見を読み分けて論の展開をおさえ、文章の内容を正確に理解する力をみようとした。また、内容を把握した上で、条件に応じて適切に表現する力もみようとした。

漢字の問題では、基本的な漢字の読み書きを通して、基礎的な言語能力をみようとした。

言語事項の問題では、同音異義語、漢字の組み立て、形容詞の活用、助詞の働きといった基礎的な言語能力をみようとした。

古典では、『古今著聞集』から出題し、口語訳を参考にしながら丁寧に読みとり、主語をとらえ、内容を正しく把握し、展開を的確にとらえる力をみようとした。

作文では、文章に書かれている内容をもとに、「目標に向かって努力を重ねることの大切さ」について一人一人が自分の考えを文章にまとめるというものである。資料に書かれている内容をもとにして、自分の体験を踏まえながら課題を見つけ、自分の考えを文章に表現する力をみようとした。

全体の通過率は67.9%で、昨年度の63.4%を4.5ポイント上回った。各大問の通過率は、下記のとおりである。

文学的文章の問題の通過率は72.4%で、前年度の71.9%を0.5ポイント上回った。

漢字の読み書きの問題の通過率は55.3%で、前年度の48.7%を6.6ポイント上回った。

言語事項の問題の通過率は79.8%で、前年度の53.5%を26.3ポイント上回った。

説明的文章の問題の通過率は73.0%で、前年度の64.6%を8.4ポイント上回った。

古典の問題の通過率は68.8%で、前年度の75.8%を7.0ポイント下回った。

作文の問題の通過率は57.6%で、前年度の60.8%を3.2ポイント下回った。

今後とも、日常の学習活動を通して、基礎・基本の定着を図りながら、国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることが必要である。また、国語に対する興味・関心を高め、論理的な思考力や自分の思いを的確に表現する力を養うために、読書指導の充実が求められる。

(3) 各問の誤答例と所見

① 問題1

ア 問題文

1 次の文章は、大城貞俊氏が書いた『アトムたちの空』という小説の一節です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

この小説に描かれている時代は、昭和三十年代である。沖縄の小さな村に住む中学一年生の一平は、みんなの大好きな初子先生や、同学年の勇治、大助、一学年上の園子などに囲まれて学校生活を送っていた。

一平の学校では、小学校から中学校まで二つの学年が一つの教室に入る複式の学級で授業が行われていた。学校の全校生徒は、小中合わせて六十名余である。一平の教室の人数は、中学一年生が七人、二年生が九人。合わせて十六人。授業は、時には同じ教科書で学ぶこともあったが、多くは、半分ずつの時間で、交互に授業が展開され、残りの時間は自習をするというシステムだ。

英語の時間は、「アー・ユー・レディ?(準備はいい?)」という初子先生の明るい掛け声があつて出欠が確認されると、一、二年生は、別々の教科書を使つて授業が進められていた。

一平は、二年生の時間帯で園子が指名されて教科書を読むときなど、園子の横顔をまぶしく見上げていた。園子は、英語だけでなく、国語の授業でも指名されると立ち上がつて、すらすらと朗読した。

園子が一学期が始まつて間もないころ、国語の授業で立ち上がつて『走れメロス』を読んだとき、一平は思わず目を上げて園子の顔を見た。あまりにも流暢に情感を込めて読んだからだ。それが、園子に好意を抱ききつかけになった。

学校では、中学生からは、すべてが大人扱いだ。あるいは、大人になるための準備として様々な活動が割り当てられた。山羊の草刈当番や、花園への水撒きは、小学校の五年生から割り当てられていたが、さらに学校の農場の管理は、中学生だけの割り当てだった。

少ない人数であるがゆえに、だれもサボる者は出なかった。サボれば、すぐにその班に支障が出た。一人では畑への水撒きもできなかった。

夏になると、^①中学生以上が全員参加することのできる「マービ捕り」は、一平には、中学生になった喜びを満喫できる最高のものだった。

マービは、黒鯛のような大きな魚だが、村の湾内に姿を現すのは、一夏に数回だけだった。その機会を、逃してはならなかった。その時期になると、村は見張り役を立てるほどだった。

マービが現れると、村の長老たちが数人で指揮を執り、まずサバニに乗つて沖に出かけて網を入れる。その網に追い込むために、中学生たちは村人と一緒に、次々と海に飛び込むのだ。

中学生の中でも、身体が大きくて泳ぎの達者なものだけが、サバニで運ばれ、より大切な持ち場を与えられたが、一平も勇治も大助も、一年生の夏に、沖まで運ばれた。

一平は、それこそ海面でさざ波のように身体をぶつけ合っているマービの大群に度肝を抜かれた。その下に、さらに幾層ものマービが群れをなして渦巻いているのだ。

水中メガネを掛けて、海に飛び込む準備をした。教えられたとおり、唾^{つば}をつけて耳栓をする。勇治も大助も、大人の仲間入りをする榮譽と緊張で、いつの間にか口数が少なくなっている。②一平の顔も、だんだんと紅潮してくる。

「一平、大丈夫か。」

大助が、息が漏れるような奇妙な声を上げる。上半身裸になった中学生たちの身体は、傍^{かたわら}らの大人たちに比べると、大助でさえ弱々しく見える。

一平は、大助の呼びかけに、手を上げ大きく首を縦に振る。

一平たちは揺れるサバニの上で脚を踏ん張り、バランスを取りながら大人たちの合図を待つ。数人の生徒は、すでに海に飛び込んで、両手を広げて海面を叩いている。何人かの男の先生の姿も、波の合間に見える。

サバニは海面をゆつくりと旋回する。その上から爆弾が海中に炸裂^{さくわ}するような波しぶきを上げながら、次々と人間が飛び込んでいく。

「今^{いま}だ！
マヤサ。」

長老の合図に、大助が飛び込んだ。続いて、勇治と一平が飛び込んだ。鼻と水中メガネにどこと海水が入る。しこたま海水を飲む。

一平は大かきをしながら、もう一度、体勢を立て直し、メガネを掛け直す。ここで弱音を吐いてはいけない。大きく息を吸い込んで、再び海中に潜る。

しばらく、泳ぎながら前進すると、鮮やかな魚の大群が目に入った。もう一度浮上すると、勇治と目が合った。

「勇治、見えるか。すごいぞ！」

「見える、見える。すごい！」

二人は、手を振りながら、それぞれの興奮を抑えきれずに伝え合う。もう一度大きく息を吸い込んで一気に海中へ潜る。マービを、網を張った方角に追いやるために、海面を叩き、脚を精一杯揺らしながら泳ぐ。マービだけでない。他にも色鮮やかな姿をした魚が混じっている。これがみんな網に引っかかるのだ。逃がしてなるもんか。③一平は、全身に力がわいてくるようだった。

一平の脳裏に、浜辺で待っている初子先生や園子の笑顔が浮かぶ。波に反射する光がきらきらと目を射る。一平は、何度も何度も息を深く吸い込むと、力いっぱい海水を蹴^けって、さらに深く潜った。

網を引き上げる男たちは、だれもが得意になっている。サバニが浜辺に近寄ると、初子先生や、園子が駆け寄ってくる。一平たちは、次々と波しぶきを上げながら、サバニから飛び降りる。

「大助君、すごいわね。」

初子先生が、砂浜に上がった大助に声を掛ける。大助が拳^{こぶし}を握^{にぎ}ってうれしそうにしている。

一平は勇治と目配^{めばせ}せをしながら、海水でもう一度身体を洗う。園子も手を振って、一平に微笑^{ほほえ}みかける。

④ 浜辺にマービが並べられて、一気に運動会のような賑^{にぎ}やかさになる。マービは、村の全家庭に行

④
 問 4 一気に運動会のような賑やかさになる。とありますが、このときの賑やかな様子として
 適当でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 捕れたマービが、村の全家庭に行き渡るように分けられている様子。
- イ 生徒たちが、配分されたマービを運んで、戻って回っている様子。
- ウ 竈に鍋が掛けられ、魚汁や刺身などが振る舞われている様子。
- エ 大人と中学生に分かれ、気の合った者どうしが集まっている様子。

⑤
 問 5 海中で見たマービの群れについて、堰を切ったように話し始める。とありますが、もし、
 あなたが「二平」の立場で、「園子」に、マービの群れを見て思ったことを伝えるとしたら、どの
 ようなことで伝えますか。次の書き出しに続けて、三十五字以上、四十五字以内で書きなさい。

海の中に潜ると、	

45 と思ったんだ。

イ 誤答例

問 題	正 答	配 点	誤 答			誤 答			誤 答			
			例	数	率	例	数	率	例	数	率	
1	問 1	マービが現	2	まずサバニ	21	26.6	マービは、	18	22.8	村の長老た	5	6.3
				その他	35	44.3	/					
	問 2	大人の仲間入りを する荣誉と緊張	2	身体をぶつけ 合っているマー ビ	3	27.3	息が漏れるよう な奇妙な声	2	18.2	海中に炸裂する ような波しぶき	2	18.2
				その他	4	36.3	/					
	問 3	一平は、何	2	何度も何度	19	20.9	一平の脳裏	18	19.8	力いっぱい	15	16.5
その他				39	42.8	/						
問 4	エ	2	ア	72	55.0	イ	47	35.9	ウ	12	9.1	
問 5	(例)今までに見た こともないほどの 鮮やかな魚の大群 が目に入って、ぼ くは一匹も逃がし てなるもんか	2	鼻と水中メガネ にどっと海水が 入ってきて、し こたま海水を飲 んだけど、弱音 を吐いてはいけ ない	6	20.7	危険がいっぱい あるけれど、波 に反射する光が きらきらとし て、とてもきれ いだ	4	13.8	爆弾が炸裂する ようなしぶきを あげながら、飛 び込んでいって こわい	3	10.3	
			その他	16	55.2	/						

ウ 所 見

文学的な文章を理解する基本的な力をみようとしましたものである。

出典は、大城貞俊著『アトムたちの空』である。

全体の通過率は、72.4%で、昨年度の文学的な文章（西加奈子著『さくら』）と比較して、0.5ポイント上回った。登場人物の心情や状況が具体的に描写されていて、理解しやすい文章であったので、場面の経過や文章の展開などに注意して読みとっていくことで、比較的容易に正答を導き出せたものと考えられる。

問1は、文章の表現に即して、内容を的確にとらえる力をみようとしましたものである。通過率は72.5%であった。傍線部の「中学生以上が全員参加することのできる『マービ捕り』」から、村人に中学生たちが協力して「マービ捕り」をする手順が描写されている連続する文をとらえる問題である。「マービが現れると」「サバニに乗って沖に出かけて網を入れ」「その網に追い込むために」「次々と海に飛び込む」という表現が、「マービ捕り」の具体的な手順になっていることを理解することが大切である。誤答例では、「まずサバニ」が26.6%、「村の長老た」が6.3%であったが、いずれも一文の途中から書き抜いたものである。「マービは、」という誤答例は22.8%であったが、これは「マービ捕り」の手順を文章の表現に即して正確に読みとれなかったためと考えられる。

問2は、文章の展開に即して、登場人物の心情を的確に読みとる力をみようとしましたものである。通過率は93.0%と高かった。「一平の顔も、だんだんと紅潮してくる。」の「一平の顔も」という表現に着目し、「勇治」や「大助」と同様に、「一平」も「大人の仲間入りをする栄誉と緊張」につつまれていることを正確に読みとる必要がある。

問3は、人物の描写に注意して、内容を的確にとらえる力をみようとしましたものである。通過率は69.0%であった。「マービの群れ」を目にした「一平」が、「逃がしてなるもんか」と思い、「全身に力がわいてくる」ように感じたことが、「一平は、何度も何度も～さらに深く潜った。」という行動に表れていることをとらえる問題である。登場人物の心情と行動を展開に即して正確に読みとる必要がある。誤答例では、「何度も何度」が20.9%、「力いっぱい」が16.5%であったが、いずれも一文の途中から書き抜いたものである。「一平の脳裏」という誤答例は19.8%であったが、これは「一平」の心情と行動を展開に即して読みとれなかったためと考えられる。日頃から文章に表現された登場人物の心情と行動の関係を、展開に即して丁寧に読みとらせる指導が大切である。

問4は、場面、経過などに注意して、表現されている内容を正しく読みとる力をみようとしましたものである。通過率は58.2%であった。「一気に運動会のような賑やか^{にぎ}かさになる。」という表現が、浜辺での村をあげての賑やかな様子を指しており、その賑やかな様子が連続する文で表現されていること、さらに、「いつの間にか、太陽が傾きかけている。」という文から場面が転換し、浜辺では大人たちと中学生とのグループにわかれていく様子の描写になっていることを理解する必要がある。誤答例では、アが55.0%、イが35.9%、ウが9.1%であった。日頃から文章に表現された場面や時間の経過などを丁寧に読みとらせる指導が大切である。

問5は、登場人物の心情を読みとり、条件に応じて適切に表現する力をみようとしましたものである。通過率は69.1%であった。「マービの群れ」を目にした「一平」の感動と「マービ捕

り」への意欲を的確に読みとった上で、設問の条件に即して適切に表現することが大切である。誤答例としては、「鼻と水中メガネにどっと海水が入ってきて、しこたま海水を飲んだけど、弱音を吐いてはいけない」など、「一平」が「マービの群れを見て思ったこと」を問う設問に正対していないものもあった。また、無答や「三十五字以上、四十五字以内」になっていないものも多かった。日頃の授業において、登場人物の心情を正確に読みとり、適切に表現する力を育てていくことが大切である。

文学的な文章では、まず登場人物や場面、展開などをしっかり把握した上で、表現に即して丁寧に読みとり、登場人物の心情をつかませたい。また、登場人物の心情や作品の主題などを適切に表現させる指導も大切である。その際、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」との密接な関連を図りながら、指導していくことが大切である。

② 問題2

ア 問題文

2 次の――の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。

(1) 足のけがは完全に治癒した。

(2) 貿易の不均衡を是正する。

(3) 先生のお宅に伺う。

(4) 登山に向けてメソッドな計画を立てる。

(5) 友人を学級委員の候補に推す。

イ 誤答例

問 題	正 答	配 点	誤 答			誤 答			誤 答			
			例	数	率	例	数	率	例	数	率	
2	(1)	ちゆ	1	かんち	29	29.6	ちりょう	26	26.5	ちあん	4	4.1
				ちせい	3	3.1	その他	36	36.7	/		
	(2)	ぜせい	1	ていせい	165	76.1	こうせい	12	5.5	ていしょう	5	2.3
				その他	35	16.1	/					
	(3)	うかが(う)	1	かよ(う)	3	23.1	むか(う)	2	15.4	つぐな(う)	1	7.7
その他				7	53.8	/						
(4)	綿密	1	面密	61	55.5	練密	2	1.8	細密	2	1.8	
			線密	1	0.9	その他	44	40.0	/			
(5)	推(す)	1	押(す)	136	83.4	維(す)	4	2.5	その他	23	14.1	

ウ 所 見

基本的な漢字を読んだり書いたりすることを通して、基礎的な言語能力をみようとしましたものである。全体の通過率は昨年度より6.6ポイント上回り、55.3%であった。漢字の読みに関する問題の通過率は、昨年の58.8%から3.6ポイント増加し、62.4%であり、漢字を書く力をみる問題の通過率は、昨年の33.6%から11.0ポイント増加し、44.6%であった。

- (1) 「ちゆ」は、通過率が64.9%で、誤答率は31.0%、無答率は4.1%であった。誤答例では、「かんち」や「ちりょう」など、文脈から類推したと思われるものが多かった。
- (2) 「ぜせい」は、通過率が28.5%で、誤答率は68.7%、無答率は2.8%であった。誤答例では、「ていせい」が最も多く、これは、「是」を含む「提」の音から類推したものである。
- (3) 「うかが(う)」は、通過率が94.0%と高く、誤答率は4.1%、無答率は1.9%であった。誤答例では、「かよ(う)」や「むか(う)」など、文脈から類推したと思われるものが多かった。
- (4) 「綿密」は、通過率が53.5%で、誤答率は34.8%、無答率は11.7%であった。誤答例では、「面密」が55.5%と最も多く、これは、音から類推したものである。
- (5) 「推(す)」は、通過率が35.8%で、誤答率は51.6%、無答率は12.6%であった。誤答例では、「押」が83.4%と最も多く、これは、音から類推したものである。

今年度は、漢字を読む力、書く力をみる問題ともに通過率が上昇した。しかし、漢字を書く力の通過率は、50.0%を下回った。漢字を書く力については、日頃の学習の中で、学習した漢字を文脈の中に位置付け、その意味や用法を理解するとともに、実際に文や文章の中で確実に使うことができるようにすることが大切である。そのためには、日頃から実際に書く機会を増やしたり、実際に書く場面を計画的に設定したりするなど、日常的な取組の工夫が求められる。また、漢字については、「書くこと」「読むこと」での指導はもちろん、「話すこと・聞くこと」や「書写」の指導を通して、正しく用いる態度や習慣も養っていく必要がある。

③ 問題3

ア 問題文

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本語を、私たちは日頃、^① どれだけカツヨウしているのでしょうか。使える言葉が多ければ、さまざまな思い、気持ちを他人に伝えることができるはずです。豊富な語彙^② 言葉の倉庫を持っていれば、さらに豊かな言葉を紡ぎ出せるはずです。

語彙が少なければ、自分の頭の中、心の中の思いを、十分に相手に届けることができません。語彙とは、他人に気持ちを届ける郵便物の封筒だと考えてみてはどうでしょうか。封筒の容量^③ が大きければ、たくさんの思いが入ります。封筒が小包くらいの大きさにまでなるかもしれません。

もし封筒が小さければ、言葉にできないさまざまな気持ちが、^④ 封筒からこぼれ落ちてしまい、相手のもとに届きません。自分の心を伝えるのは、結局は言葉なのですから。

(池上彰著『日本語の「大疑問」』による。一部省略がある。)

問1 ^① カツヨウ とありますが、これを漢字で表したとき、「ヨウ」の部分と同じ漢字が使われている熟語(漢語)はどれですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 模様 イ 掲揚 ウ 要点 エ 用務

問2 ^② 倉庫 とありますが、これと同じ組み立て(構成)になっている熟語(漢語)を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 意志 イ 船出 ウ 投球 エ 早春

問3 ^③ 大きけれ とありますが、この部分の言い切りの形を書きなさい。

問4 ^④ 封筒から とありますが、この「から」と同じ働きをしている「から」が含まれている文を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア バターは牛乳から作られる。
イ 声をかけたのはなつかしさからだ。
ウ 山から涼しい風が吹いてくる。
エ 悲しみから涙があふれる。

イ 誤答例

問 題	正 答	配 点	誤 答			誤 答			誤 答			
			例	数	率	例	数	率	例	数	率	
3	問 1	エ	1	ウ	30	71.4	ア	7	16.7	イ	5	11.9
	問 2	ア	1	イ	27	48.2	ウ	22	39.3	エ	7	12.5
	問 3	大きい	1	大きかった	7	16.3	大きければ	4	9.3	大き	3	7.0
				その他	29	67.4	/					
問 4	ウ	1	エ	58	56.3	ア	39	37.9	イ	6	5.8	

ウ 所 見

文章を読むことを通して、基礎的な言語能力をみようとしたものである。

問 1 は、同音異義語の識別を通して、基本的な語彙力をみようとしたものである。通過率は、86.7%と高かった。学習に当たっては、辞書的な意味を理解させるだけでなく、文脈にあった適切な用法を身に付けさせることが大切である。また、一字一字の漢字の音訓や意味をもとに、既知の語句と関連させて、いろいろな語を識別することができるように指導することも大切である。

問 2 は、漢字の組み立てに関する基本的な語彙力をみようとしたものである。「倉庫」は「前の部分とあとの部分が似た意味で並立する関係」にあり、ア「意志」が正答となる。通過率は、82.3%と高かった。漢字の字体、音訓、意味や用法などの知識を確実に身に付けさせ、文脈の中で漢字を正しく使うことを心がけさせることが大切である。

問 3 は、形容詞の活用という基本的な文法力をみようとしたものである。通過率は、82.9%と高かった。誤答例としては、「大きかった」と助動詞を加えて答えたものが、16.3%あった。活用のある単語では、言い切りの形（終止形）をとらえさせることが基本となる。国語辞典を用いる際にも、言い切りの形が理解できていれば、早く正確に目的の語を探すことができる。

問 4 は、助詞の働きの識別を通して基本的な文法力をみようとしたものである。通過率は、67.4%であった。「から」という助詞が、原料、材料を表す助詞であるか、原因や理由を表す助詞であるか、あるいは、起点を表す助詞であるかという識別は、基本的な言語事項として、文章読解の基盤となるものである。助詞が文脈の中でどのような働きをしているかに注意させ、「書くこと」や「読むこと」に役立たせるようにすることが大切である。

④ 問題4

ア 問題文

4 Aさんの学級では、国語の授業で、「環境問題を考える」というテーマで選んだ本の内容を紹介することになりました。Aさんのグループが選んだのは、花里孝幸氏が書いた『ミジコ先生の水環境ゼミ』という本の一節です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(①から⑦は段落につけた番号です。)

- (1) 現在、我々はさまざまな環境問題を抱えており、その解決が大きな課題になっている。しかし、環境問題は複雑で、解決は簡単ではない。なぜ難しいのか。湖の富栄養化に伴う水質汚濁問題を例に、そのことを考えてみる。
- (2) 湖の水質汚濁問題は流入してきた窒素やリンからなる栄養塩によって引き起こされる。だが、窒素やリンはもともと自然界にあるもので、すべての生き物の生存に必須の物質だ。本来は、豊かな森林をもつ山から流れ下る川によって供給され、湖の生き物たちの生活を支えてきた。この物質が水質汚濁問題を起こしたのは、人間が排出した大量の栄養塩が湖に流入したのが原因である。
- (3) ところが、大量の窒素やリンが与えられても問題を起こしていないところがある。農地である。農地ではこれらの物質を含んだ肥料を積極的に撒いて土地を富栄養化させている。農作物を育てるためだ。ここでは窒素やリンは大切な物質であり、悪者扱いされている湖とはまったく異なる。考えてみればおかしな話だ。窒素とリンが与えられた結果、農地と湖では同じことが起きているのである。畑では地表面に植物、すなわち農作物が繁茂するが、湖でも植物であるプランクトンのラン藻が大量に増えて水面にアオコが発生する。
- (4) では、なぜ湖では問題となるのか。これは、人間が農地と湖に対して求めているものが違うからである。畑では、人間は地上の植物の成長を求めており、その下にある地中の土そのものには構っていない。それに対し、湖に求めているものは水面下の水の質である。水面にアオコが発生すると水がぐさぐさになり、増えた有機物の分解によって深水層が酸欠状態になるのが困るのである。
- (5) 畑でも土の質を重視する。たとえばよい土の条件として、水もち水はげがよく、腐食質を含んで有用微生物の多いことがあげられる。しかし、それはあくまでも地上の作物がよく育つか否かを基準とした評価である。もし湖面に発生するアオコを求めるのならば、かびくさくて酸欠になる水が望ましい水質ということになるだろう。
- (6) 農地と湖。窒素とリンはどちらでも同じはたらきをしているのに正反対の評価が下される。これは人間の身勝手によるものだ。
- (7) 湖の富栄養化はとにかく悪いことで、水質を浄化することがどこの湖でも必要であると多くの人は考えているように思われる。確かに透きとおった水をたたえた湖は観光客が求めているものであるし、湖水を水道水源として利用する場合には澄んだ水が必要である。しかし、それを歓迎しない人たちもいる。漁業関係者である。なぜなら、水質浄化は植物プランクトンを減らすことであり、そうなることを餌とする動物プランクトンが減り、さらにその捕食者である魚が減ることになるからである。最近になって水質浄化が進んでアオコの発生量が大きく減った諏訪湖では、湖底に生息するユスリカ幼虫が減少し、それを餌としていた魚の成長が悪くなり問題となった。

- (8) また、水草は水質浄化の効果があり、多様な生き物たちの生息場となることから、多くの湖でそれを増やすとり組みがなされている。しかし、船の航行の障害になるため、水草の増加は漁師には必ずしも歓迎されない。諏訪湖では水質浄化が進んで湖水の透明度が上がった結果、水草が大量に増えはじめたが、漁業関係者は困惑している。
- (9) ここで考えなければならないことは、すべての人が同じ環境を望んでいるわけではないということだ。立場が異なれば、湖に求めている環境も異なるのである。いい換えれば、湖は異なった目的をもつさまざまな人々によって利用されているということだ。このことが湖の管理を難しくしている。
- (10) ではどうしたらよいのだろうか。「とにかく澄んだ水を求める」ということが必ずしもよいこととは限らないことを理解し、それぞれの湖で多くの人が受け入れられる環境・生態系の姿を決め、それに向かつて湖の管理を進めるのがよいと私は考える。そのためには、環境を変えたときに生態系がどのように変わるのか、それを予測することが必要だ。
- (11) 水質浄化が進むと魚が減ることからわかるように、湖の水質が変われば生態系が変わり、我々の生活に影響が及ぶことになる。また逆に、生態系が変わればそれが水質を変え、やはり我々の生活に影響する。
- (12) 近年の研究で、魚が増えると湖の水質汚濁が進むことが明らかになってきた。魚が大型ミジンコのダフニアを食べてしまい、天敵のミジンコが減ったことで汚濁の原因となる植物プランクトンが増えるのである。また、コイなどの底生魚は、湖底の泥をかき回して泥の中の栄養塩を水中に帰還させて水質汚濁を助長する。したがって、漁業活動で魚を放流することは、生態系を攪乱して水質に影響を及ぼす可能性がある。
- (13) 農業や漁業は、本来は自然の恵みを利用した経済活動である。ところが、現代では、生産性を上げるために肥料を撒いたり魚の放流をするなど、自然に対して積極的なはたらきかけをしている。これにより自然に負荷を与えているのである。したがって、農業や漁業の関係者は、自らが自然の恵みを受ける立場であるとともに自然に負荷を与える立場であることを認識し、その場や地域で求められている環境と共存できる農業や漁業のありかたを考えるべきであろう。これは、すべての人にあてはまることでもある。
- (14) 環境問題は人間活動が引き起こしたものであり、その評価は人間の価値観に基づいている。ところが、その価値観は人によって異なる。これが環境問題を複雑にし、解決を難しくしているといえるだろう。その解決のためには、市民それぞれが環境問題に対する正しい認識をもつことが必要だ。それぞれが自ら学び、価値観の異なる人の考えも考慮した総合的な視点をもたなければならぬ。我々をとりまく環境をどうするのか。それを決めるのは我々自身である。

(花里孝幸著『ミジンコ先生の水環境ゼミ』による。一部省略がある。)

- (注) ※富栄養化……窒素、リンなどの栄養分が増えること。
※栄養塩……海水や淡水に含まれ、プランクトンの栄養になる成分。
※アオコ……湖沼のプランクトンが異常増殖をし、水面に薄皮あるいは塊状として浮いているもの。

問1 Aさんは、(2)の段落にある「窒素やリンはもともと自然界にあるもので、すべての生き物の生存に必須の物質だ。」に着目し、もともと自然界にある窒素やリンが、どうして湖の水質汚濁問題の原因になったのか、その理由を(2)の段落から次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、本文中から探し、十五字以上、二十字以内で書き抜きなさい。

窒素やリンが、湖の水質汚濁問題の原因になったのは、

からである。

問2 Bさんは、(6)の段落にある「農地と湖。窒素とリンはどちらでも同じはたらきをしているのに正反対の評価が下される。」ということに着目し、このことを説明するために、(3)(4)の段落から、次の表のように整理しました。空欄ア、イにあてはまる内容を、それぞれ本文中から探し、アは五字で、イは七字で書き抜きなさい。

	人間が求めているもの	窒素とリンが与えられた結果	窒素とリンに対する人間の評価
農地	・地上の植物の成長。	・農作物が繁茂する。	・農地では、窒素とリンは、 <input type="text"/> アとされている。
湖	・ <input type="text"/> イ。	・植物であるプランクトンのラン藻が大量に増えて水面にアオコが発生する。	・湖では、窒素とリンは、 悪者扱いされている。

問3 Cさんは、(H)の段落に着目し、「湖の水質」と「生態系」の関係について、本文にあげられている具体例を、次のようにまとめました。そのまとめとして**適当でないもの**を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 水質を浄化することはプランクトンを減らすことであり、その捕食者である魚を減らすことにつながる。
- イ 諏訪湖では、水質浄化が進んで湖水の透明度が上がったことにより、水草が大量に増えはじめた。
- ウ 魚を放流し湖の魚が増えると、ミジンコを食べてしまい、水質汚濁の原因となる植物プランクトンが増える。
- エ コイなどの底生魚は、湖底の泥をかき回すことにより、湖水の酸欠状態を改善する手助けをしている。

問4 Aさんのグループでは、「環境問題を考えるうえで大切なこと」について、この文章から説明しようと考え、(H)の段落から、次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、**価値観**、**認識**、**環境**の三つのことばをすべて使って、五十字以上、七十字以内で書きなさい。ただし、三つのことばを使う順序は問いません。

環境問題の解決に向けて、	
	50
	70

を決めること

とが大切である。

問5 Aさんのグループでは、この文章から読みとった内容を整理しました。この文章に書かれている**内容と違うもの**を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 我々が抱えているさまざまな環境問題は複雑であり、その解決は簡単ではない。
- イ 湖水は水道水源として利用されるので、どこの湖でも水質を浄化しなければならない。
- ウ 湖の管理を進めるには、環境を変えたときの生態系の変化を予測することが必要だ。
- エ 生産性を上げるための自然に対する積極的なはたらきかけは、自然に負荷を与える。

イ 誤答例

問 題	正 答	配 点	誤 答			誤 答			誤 答				
			例	数	率	例	数	率	例	数	率		
4	問 1	人間が排出した大量の栄養塩が湖に流入した	2	分解によって深 水層が酸欠状態 になる	5	29.4	流入してきた窒 素やリンからな る栄養塩	2	11.8	農地と湖では同 じことが起きて いる	1	5.9	
				その他	9	52.9							
	問 2	ア	大切な物質	1	水面下の水	6	37.5	植物の成長	3	18.8	育てるため	2	12.5
					その他	5	31.2						
		イ	水面下の水の質	1	透きとおった水	7	36.8	土地の富栄養化	4	21.1	水質を浄化する	3	15.8
					その他	5	26.3						
	問 3	エ	2	イ	53	46.5	ウ	33	28.9	ア	28	24.6	
	問 4	(例)市民それぞれが、環境問題に対する正しい認識をもち、価値観の異なる考えも考慮した総合的な視点に立って、我々を取りまく環境をどうするの か	2	価値観の異なる人の考えも考慮して、この世界に住む全ての人々が、環境問題に対する全ての人々にとって共通の正しい認識	6	11.5	市民それぞれが環境に対する認識で全ての人々の環境に対する価値観に合った総合的な視点で見ることが出来る考え	2	3.9	その他	44	84.6	
	問 5	イ	2	ウ	38	50.7	エ	26	34.7	ア	10	13.3	
				その他	1	1.3							

ウ 所 見

国語の授業で、「環境問題を考える」というテーマで選んだ本の内容を紹介するという場を設定し、説明的な文章を理解する基本的な力をみようとしましたものである。出典は花里孝幸氏の『ミジンコ先生の水環境ゼミ』である。全体の通過率は73.0%であり、昨年度の通過率64.6%を8.4ポイント上回った。日頃の学習活動の中で、筆者の主張部分と具体例の部分を整理しながら文章の構成や展開を正しく読みとったり、要旨をとらえたりする指導が大切である。また、授業で学習した内容に関連した本を読むなど、読書の幅を広げ、読書を生活に役立てようとする態度の育成も重要である。

問1は、文章の展開に即して、内容をとらえる力をみようとしましたものである。もともと自然界にある窒素やリンが、どうして湖の水質汚濁問題の原因になったのかを、(2)段落からまとめるものである。通過率は92.1%であった。誤答例のうち、「分解によって深水層が酸欠状態になる」が、29.4%と多かった。(2)段落における窒素やリンが増えた原因を読みとることができず、(4)段落に解答を求めてしまったための誤答と考えられる。文章の展開を丁寧に読みとっていくことが大切である。

問2は、文章の構成や展開を正しく読みとり、整理する力をみようとしましたものである。(6)段落にある「農地と湖。窒素とリンはどちらでも同じはたらきをしているのに正反対の評価が下される。」ということに着目し、このことを説明するために、表にまとめて内容を整理するという設定である。通過率はアが87.6%、イが85.8%であった。農地と湖に対して人間が求めているものや、窒素とリンが与えられた結果どのようなことが起きているのか、また、その結果、窒素とリンは農地と湖でどのような評価を受けているのかを、文章の展開に即して、叙述された内容や構造を考えながら読みとっていくことが大切である。

問3は、文章に書かれている内容を正しく読みとる力をみようとしましたものである。(11)段落に着目し、筆者の主張とその論拠となる具体例の関係を整理した上で、「湖の水質」と「生態系」の関係を読みとるものである。通過率は61.1%であった。誤答例としては、イが46.5%と多かった。(8)段落には、「しかし」に続いて「船の航行の障害になるため」とあることから、「湖の水質」と「生態系」の関係ではないと読み誤ったためと考えられる。

問4は、文章に書かれている内容を正しく読みとり、条件に応じて適切に表現する力をみようとしましたものである。「環境問題を考えるうえで大切なこと」を、(14)の段落から「価値観」「認識」「環境」の三つのことばをすべて使い、書き出しと結びにつなげる形で五十字以上、七十字以内でまとめる問題である。通過率は53.3%であった。誤答例では、三つのことばを用いていないもの、指定字数に合わないもの、単に三つのことばを羅列し本文を抜き出したものなどが多くみられた。また、無答が21.8%であった。説明的な文章の要旨をとらえることは、文章を理解するための基本的な事項の一つである。文章の展開を踏まえながら内容的に理解する学習に取り組むとともに、理解した内容を条件に応じて適切に表現する学習に取り組ませることが大切である。

問5は、文章に書かれている内容を、叙述に即して正しく読みとる力をみようとしましたものである。この文章に書かれている「内容と違うもの」を選択させる問題であり、本文と問題文との関連付けが必要になる。通過率は71.9%であった。誤答例としては、ウが50.7%と最

も高く、ついでエが34.7%であった。誤答ウは、(10)段落の『とにかく澄んだ水を求める』ということが必ずしもよいこととは限らない」という叙述から読み誤ったためと考えられる。文章全体を、具体例を整理しながら叙述に即して丁寧に読みとっていくことが大切である。

⑤ 問題5

ア 問題文

5 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(……の右側は口語訳です。)

※ 一条の二位の入道のもとに、^{うわさに高い暴れ馬}高名の跳ね馬^い 出で来たりけり。 ※^{はなのよりひさ}秦頼久を
呼び寄せなさつてお乗せになつたのだが
めして乗せられたりけるに、ひとたまりもせず跳ねおとされけるを、父^{あつち}敦頼^{よち}が七十^{しち}有^あ余^まにて
候^{さう}ひけるが、これを^①見て、「^{下手な乗り方をするものだ}わろくつかうまつるものかな。^{私ならば落ちはずまいに}敦頼はよも落ちじ。」とぞ申しけるを、
年を取つているからどんなものかと
老後にいかかとは 入道おもひながら、^{それならば乗つてみよ}「それは乗れかし。」といはれたりければ、^{おつしやつたので}

② やがて乗りて、すこしも落ちざりけり。人々目を驚かしけり。
(『古今著聞集』による。)

(注) ※一条の二位の入道……^{むむらのはむす}藤原能保のこと。

※秦頼久……貴人の警護に当たり、馬術にすぐれていた。敦頼はその父。

問1 ① 見て とありますが、この主語はだれですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 一条の二位の入道 イ ^{はなのよりひさ}秦頼久 ウ ^{あつち}敦頼 エ 人々

問2 ② やがて とありますが、この語の本文中の意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア ただちに イ しだいに ウ いつの間にか エ ころうじて

問3 本文の展開に従って、次のア～エの文を並べかえ、その記号を書きなさい。

- ア 頼久は、暴れ馬からすぐに落とされてしまった。
- イ 敦頼は、暴れ馬を乗りこなすことができた。
- ウ 入道は、敦頼に暴れ馬に乗ってみよと言つた。
- エ 敦頼は、私なら暴れ馬から落ちほしなと言つた。

イ 誤答例

問 題	正 答	配 点	誤 答			誤 答			誤 答			
			例	数	率	例	数	率	例	数	率	
5	問 1	ウ	1	イ	62	72.1	ア	17	19.8	エ	6	7.0
				その他	1	1.1						
	問 2	ア	1	イ	53	55.8	ウ	35	36.8	エ	7	7.4
	問 3	ア→エ→ウ→イ	1	ウ→ア→エ→イ	45	42.5	ウ→エ→ア→イ	14	13.2	ウ→ア→イ→エ	12	11.3
				ウ→イ→エ→ア	9	8.5	その他	26	24.5			

ウ 所 見

平易な古典を理解する力をみようとしましたものである。資料文は『古今著聞集』による。難しい語句には右脇に口語訳を付け、中学生に理解しやすいように配慮した。全体の通過率は、68.8%であり、昨年度の古典（『十訓抄』）と比較して、7.0ポイント下回った。日常の学習の中で、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育てることが大切である。

問1は、基本的な読みとりの力をみようとしましたものである。古文においては、主語が省かれたり変わったりする場合が多く、文章を読み親しむ上で、主語を確認することは基本的な学習活動の一つである。通過率は、72.2%であった。古典に限らず文学作品においては、登場人物や前後の状況を整理しながら読み進めていくという、基本的な学習が大切である。

問2は、文章の表現に即して、内容を読みとる力をみようとしましたものである。通過率は69.0%であった。誤答例のうち、イの「しだいに」が55.8%を占めている。これは、現代語「やがて」の意味を、そのまま解答してしまったことによる誤りと考えられる。「敦頼はよも落ちじ。」と言ったのを聞いた「入道」が、それならば乗ってみよとおっしゃったので、「敦頼」は「ただちに」暴れ馬に乗ってみせたのである。口語訳を参考にしながら、前後の文脈を丁寧にたどっていけば、容易に正答を導ける問題である。

問3は、文章の展開を的確にとらえる力をみようとしましたものである。通過率は、65.2%であった。誤答例のうち「ウ→ア→エ→イ」や「ウ→エ→ア→イ」等、ウを一番先にして答えているものが75.5%を占めている。これは、本文の内容を丁寧に読み進めなかったための誤りと考えられる。日頃の学習において、文章全体を理解し、文章の展開に沿って読みとる力を養う指導が必要である。

⑥ 問題6

ア 問題文

⑥ 次の文章は、鴨下^{かもしだごろう}一郎氏が書いた『心を希望に向けて』という文章の一節です。この文章に書かれている内容をもとに、「目標に向かって努力を重ねることの大切さ」について、あとの注意に従って、あなたの考えを書きなさい。

夢や目標は、はじめは遠い道のりに見えるかもしれませんが。しかし、たとえ歩みは遅くても、少しずつ努力を重ねて歩き続けていれば、いつかは現実的になってきます。

どの登山家も、エベレストに登るためには、最初は小さな山を征服し、実力を積み上げてから挑戦しています。ゆつくりと、確実に歩を進めて、立ち止まらずに頂を目指せば、その努力が実を結ぶ日がきことやってくるでしょう。

(鴨下一郎著『心を希望に向けて』による。一部省略がある。)

(注意)

- (1) 自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえて書くこと。
- (2) 文章は、十三行以上、十五行以内で書くこと。
- (3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、かなづかいも正確に書くこと。
- (4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

(以上で問題は終わりです。)

イ 得点分布

	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
数	25	38	72	47	49	25	21	11	28
率	7.9%	12.0%	22.8%	14.9%	15.5%	7.9%	6.6%	3.5%	8.9%

※0点のうち、誤答…13 無答…15

ウ 所 見

文章に書かれている内容をもとにして、「目標に向かって努力を重ねることの大切さ」について自分の考えをまとめ、相手や目的に応じて適切に文章を書く力をみようとしたものである。「様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせる」という中学校学習指導要領「B書くこと」の第2学年及び第3学年の目標に沿った内容の課題である。

資料文は、鴨下一郎氏の『心を希望に向けて』による。夢や目標を達成するためには、「ゆっくと、確実に歩を進めて、立ち止まらずに頂を目指せば、その努力が実を結ぶ日がきつとやってくる」として、着実に努力を重ねることの大切さについて述べた文章である。

作文の内容については、学校生活の中の学習や部活動において、努力したことにより、できなかったことができるようになったことや、目標を達成することができたことなど、自分の体験を踏まえながら、努力を重ねることの大切さについて述べている作文が多かった。

文章構成については、最初に筆者の考えに対し賛成であるという自分の意見を述べ、次にその根拠となる自分の体験について触れ、最後にまとめを書くという、「はじめ」「なか」「おわり」の構成をとっている作文が多かった。自分の考えを伝えるために、その根拠を明確にしているものが多く、作文を書く上で大切なことである。また、最初に自分の体験について書き、最後にそれをまとめる形で自分の考えを書いている作文などもみられ、それぞれ自分の考えを分かりやすく伝えるために、文章構成を工夫しているものが多くみられた。しかし、少数ではあるが、自分の体験を踏まえて書いていないものや、秩序ある文章の構成ができておらず、事実の羅列だけで終わっているものもみられた。自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、段落意識をもち、文章全体の構成を工夫することが重要である。

表記面では、話し言葉で書いているものが多くみられた。作文を書く場合には、相手意識や目的意識をもち、どのような言葉を用いたらよいのか、どのような書き方をしたらよいのか、場面や目的にふさわしい文章の書き方を身に付けさせなければならない。また、送り仮名の間違い、誤字や脱字、敬体と常体が混在しているものや、主語と述語が呼応していないものなど、文章を書く際の基本的な誤りも見受けられた。その他、原稿用紙の使い方に従っていないものも多くみられ、日頃から原稿用紙を使いながら、書くことの指導の中に推敲を位置付けて、自分の書いた文章を読み直すことを習慣付けさせたい。

また、ごく一般的な既習漢字も使わず、平仮名で済ませてしまっているものも多くみられた。「教育に関する3つの達成目標」にもあるとおり、学年別漢字配当表の漢字については、文章の中で使いこなすことができるように、着実な指導を積み重ねる必要がある。

国語科の授業では、「伝え合う力」を高めることが求められている。様々な材料をもとに、自分の考えを深め、論理的に書き表す能力や目的や場面に応じて的確に表現する能力を身に付けさせることが重要である。自分の体験をもとに、その体験から何を感じたのか、また、どのように思ったのかなど論理の展開を考え、自分の考えを分かりやすく伝えるという学習を繰り返すことが大切である。